

【別添資料 4】 本市が目指している全体像のイメージ



<目指す姿>

「デジタルファースト・ワンスオンリー・ワンストップで事務ミスゼロの業務遂行」

○デジタルファースト

- ・ 決裁～監査までなど、内部事務においてデジタルデータで一環した対応・作業が可能な状態であること

○ワンスオンリー

- ・ 各システム・工程間のデータが連携しており、一度入力したデータを活かして業務が完結すること

○ワンストップ

- ・ 複数課にまたがる申請も、関連する申請又は束ねられる申請は、並行して事務処理できる状態であること

<目指す姿が実現した際の職員の働き方>

- 市民・事業者からの申請はデータで取り扱うことができ、またはデータ化がAI-OCR等で容易に変換することができ、最終行程に至るまでそのデータをベースに作業を進めていくことができる。

- 職員は各システム・工程間でデータの物理的移動を行う必要がない。紙媒体を扱うことがない。

- 職員は各システムが裏で連携していることを意識することなく、1つの画面(職員ポータル)で業務遂行している。

- マニュアル・チェックリストに依存せず業務工程や確認事項を把握することができ、新規採用職員や異動間もない職員でも新たな業務を遂行することができる。(事務に対する不安感の払拭)

<DX時代において当たり前に職員に提供すべき価値>

◆上記の目指す姿・職員の働き方から、現在・将来の職員に向けて3つの「解放」を実現

- ① 大量の入力・転記作業、紙からデータ、データから紙という不毛かつ非効率な業務からの解放。
- ② 事務ミスに対する不安や負担からの解放。
- ③ 人海戦術からの解放。

市民・事業者



市民ポータル

事業者ポータル

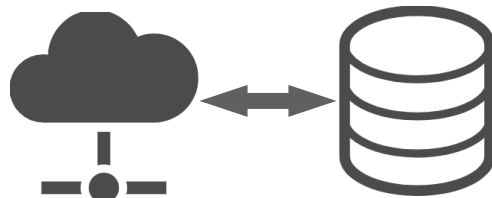
市民・事業者ポータルが入口となり、
様々な申請・サービスが利用できるフツー

データを賢く活用
パーソナライズされた
サービス展開

(市役所が身近になる・
寄り添えるフツー)



システム



最新のツールでサービスを提供
(クラウドバイデフォルト)

申請等のデータは
庁内システムとも連携するフツー

職員



分断している庁内システムは
データで連携するフツー



職員ポータル

データ連携により
職員は一つの画面で
効率的に作業できるフツー

市民 事業者

- 市民・事業者の方々が各種申請・サービスなどを探すことなく、それぞれのニーズにあった申請などを閲覧・手続きにつながるができるポータルサイト(申請等への入口となる個人用ホームページ)を構築していきます。
- 市民・事業者の方はこのポータルサイトから様々な申請等へアクセスすることが可能となります。その際、LINEやあいち電子申請・届出システム、電子契約などへリンクしていくことも可能としていきます。市民・事業者の方が、申請毎に手続きするためのシステムを探すなどの手間はなくなります。
- 市民・事業者の方々の情報については、職員側では制度ごとではなく個人ごとに管理・閲覧することをできるようにしていきます。その際、部署毎での閲覧権限なども付与することで、適切な情報管理も実現することができます。

システム

- 市民・事業者ポータルを經由して様々なシステムから申請等されたデータについては、データ連携プラットフォームを經由して、庁内で既存で利用している様々なシステムへデータが流れてくることを可能としていきます。

職員

- 職員は、市民・事業者ポータルを經由して様々なシステムから申請等され、データ連携プラットフォームを經由して庁内の様々なシステムへ流れてきたデータを活用しながら内部事務を行うことができます。
- その際、現状では分断している各種システムをデータで連携することで、それぞれのシステムで同じことを複数回入力するなどの手間や入力ミスの可能性を無くしていきます。
- 職員が日常行っている、決裁や契約管理、財務処理などの作業については、職員ポータルを構築して、1つの画面で業務フローに基づいてこれらの作業・事務を行える環境を構築していきます。これにより事務ミスを無くしていくなど、職員の負担軽減・事務の効率化を目指していきます。
- また、職員は市民ポータル・事業者ポータルを閲覧することができ、よりニーズにあったサービスの案内や困っている市民は事業者の方への支援策の提示など行うことが可能となります。閲覧権限等は現状のオンラインと同様に付与しながら閲覧できる範囲は適切に管理していきますが、庁内横断的な議論や施策展開なども市民・事業者ポータルサイトの構築により可能となっていきます。

